

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長兼 COO 福島 保
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

第4回 学習指導基本調査 速報

この10年間で、教員の教育観は大きく変化 子どもの個性や自主性重視から、学力底上げ路線へ

株式会社ベネッセコーポレーション（本社：岡山市、以下ベネッセ）の社内シンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」では、2007年8月～9月、全国の公立小・中学校の教員3,981名ならびに公立小・中学校の校長1,087名を対象に、「第4回学習指導基本調査」を実施し、学習指導の実態と教員の意識を調査しました。この調査は、1997年、1998年、2002年にも実施しており、過去10年間にわたる教育現場の変化をとらえることができます。

主な調査結果は、以下のとおりです。

1. 教員の教育観は、この10年で大きく変化している。「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」より「不得意な教科や領域の学力をつけさせること」を重視する教員が増えるなど、子どもの個性や自主性を尊重する意識よりも、教員が中心になって学力を底上げしようという意識が高まっている。
2. 「表現活動を取り入れた授業」「自分で調べることを取り入れた授業」といった、体験的な活動を行う授業を心がける教員の割合が、2002年に比べて減少している。
3. 小学校教員の94.0%が宿題を「毎日出す」と回答するなど、宿題を出す頻度や分量が増加している。また、家庭学習の時間を指導している教員の割合も増加している。
4. 「教材準備の時間が十分にとれない」「作成しなければならない事務書類が多い」「休日出勤や残業が多い」など、小・中学校ともに7割を超える教員が、忙しいことに悩んでいる。

今回の調査からは、「確かな学力」を向上させるための政策が進められるなか、教員の教育観が大きく変化し、どの子どもにもできるだけ学力をつけさせたいという意識が高まっていることが分かります。宿題を出す頻度や家庭学習時間の指導を行う割合も高まっています。しかし一方で、学習指導要領改訂に向け、活用や探究など体験的な授業を心がける教員は減少しています。教員は多忙感を感じており、今後、知識・技能の習得だけでなく、活用や探究にかかわる教育活動もバランスよく進めるためには、教員配置や研修の充実など、条件整備や資源配分がますます重要になると考えられます。

このリリースに関するお問い合わせ先
株式会社ベネッセコーポレーション 広報・IR部（坂本、西沢、中島、濱野）
TEL 042-356-0657 FAX 042-356-7301

<調査の詳細>

■ 調査概要

時期	2007年8月～9月
方法	郵送法による質問紙調査
地域	全国 ※ ただし、1997年調査(中学校教員対象)、1998年調査(小学校教員対象)は全国6地域、2002年調査(小・中学校教員、小・中学校校長対象)は全国14地域で実施
対象	1. 教員調査...公立小学校の教員 1,872名、公立中学校の教員 2,109名 ※ 小学校は学級担任のみ、中学校は国語・社会・数学・理科・外国語のいずれかの担当教員のみ 2. 学校調査...公立小学校の校長 528名、公立中学校の校長 559名
調査企画・分析メンバー	耳塚寛明(お茶の水女子大学教授:研究会代表)、樋田大二郎(青山学院大学教授)、西島央(東京大学助教)、諸田裕子(東京大学産学官連携研究員)、木村治生(Benesse 教育研究開発センター教育調査室長)、邵勤風(Benesse 教育研究開発センター研究員)、朝永昌孝(Benesse 教育研究開発センター研究員)、直井多美子(Benesse 教育研究開発センター研究員)

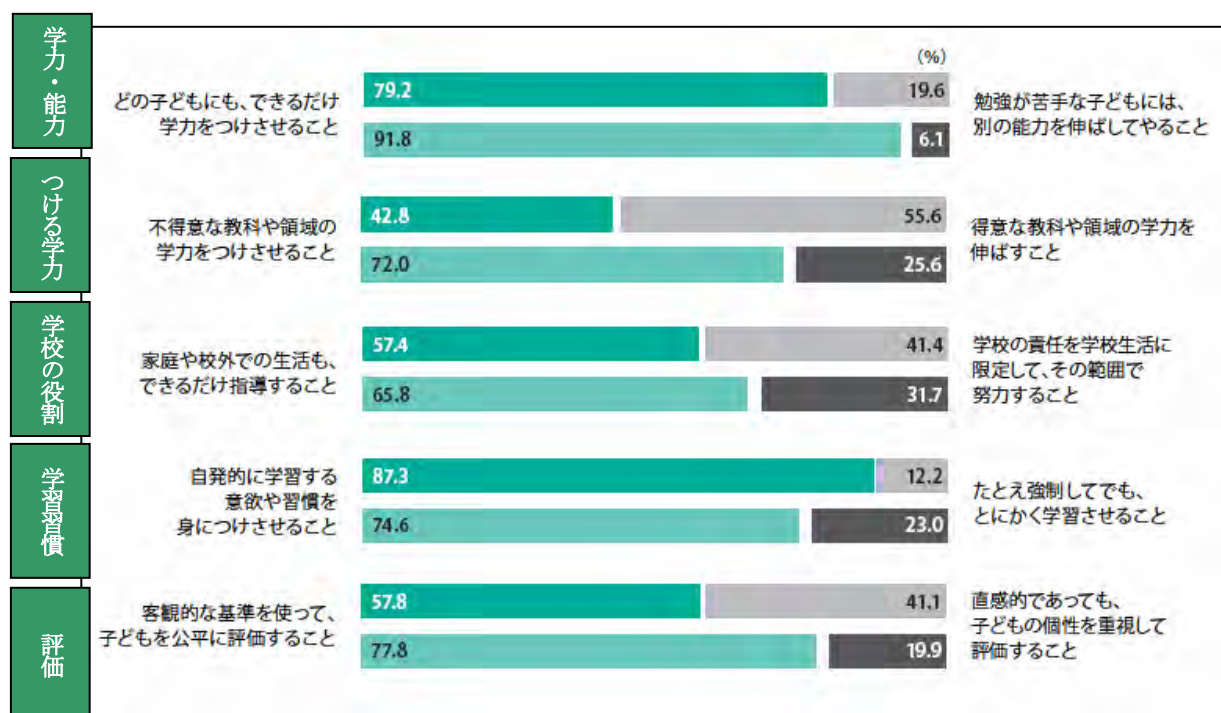
■ 調査結果概要

(1) 授業や生活指導で大切にしていること (小学校教員) (⇒ 速報版p16-17)

「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」より「不得意な教科や領域の学力をつけさせること」を重視する教員が増えるなど、子どもの個性や自主性を尊重する意識よりも、教員が中心になって学力を底上げしようという意識が高まっている。

Q. 授業や生活指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。あえていえば重視していると思うほうの番号1つに○をつけてください。

98年調査 (上段) 07年調査 (下段)

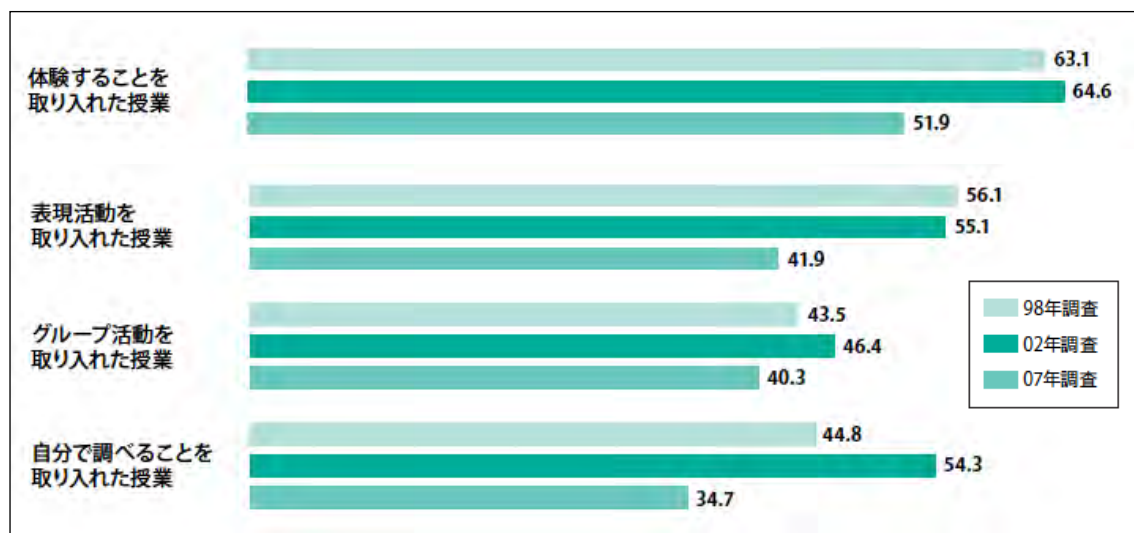


(2) 教科の授業方法の心がけ (小学校教員) (⇒速報版p8-9)

「表現活動を取り入れた授業」「自分で調べることを取り入れた授業」といった、体験的な活動を行う授業を心がける教員の割合が、2002年に比べて減少している。

Q. 教科の授業において、どのような授業方法を心がけていますか。

「多くするように特に心がけている」の%

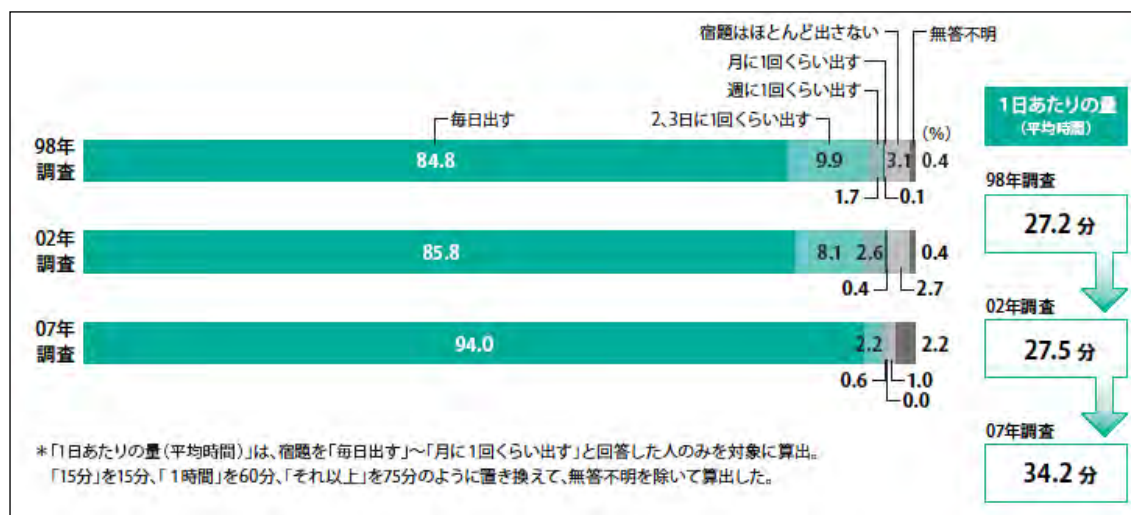


(3) 宿題を出す頻度と1日あたりの量 (小学校教員) (⇒速報版p13)

小学校教員の94.0%が宿題を「毎日出す」と回答するなど、宿題を出す頻度や分量が増加している。

Q. どのくらい宿題を出していますか。

Q. 宿題は、平均的な児童にとってほしい1日何分くらいの量になりますか。(「毎日出す」～「月に1回くらい出す」と回答した人のみ)



(4) 教員の悩み(小・中学校教員) (⇒ 速報版p18)

「教材準備の時間が十分にとれない」「作成しなければならない事務書類が多い」「休日出勤や残業が多い」など、小・中学校ともに7割を超える教員が、忙しいことに悩んでいる。

Q. 次のような悩みをどれくらい感じていますか。

「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%

	小学校教員	中学校教員
第1位	教材準備の時間が十分にとれない (90.7%)	教材準備の時間が十分にとれない (83.3%)
第2位	作成しなければならない事務書類が多い (87.5%)	作成しなければならない事務書類が多い (81.5%)
第3位	休日出勤や残業が多い (72.1%)	休日出勤や残業が多い (79.5%)
第4位	図書費や教材費が不足している (70.4%)	児童・生徒の学習意欲が低い (69.9%)
第5位	児童・生徒間の学力差が大きくて授業がしにくい (66.8%)	校務分掌の仕事が負担である (68.7%)

<ご参考> 10年間の主な教育動向

1996年度	中教審答申...「生きる力」の育成と「ゆとり」の確保
1997年度	教課審中間まとめ...「総合的な学習の時間」の提示
1998年度	学習指導要領の告示...授業時数の削減と学習内容の厳選
1999年度	この頃から「学力低下論争」
2000年度	教育改革国民会議
2001年度	学びのすすめ(2002年1月)...確かな学力の向上のための2002アピール
2002年度	学習指導要領の施行...完全学校週5日制、絶対評価
2003年度	学習指導要領の一部改訂
2004年度	「PISA2003」「TIMSS2003」結果発表
2005年度	文科省「読解力向上プログラム」発表
2006年度	
2007年度	全国学力・学習状況調査の実施、「PISA2006」の結果発表 中教審答申(2008年1月)

<Benesse 教育研究開発センターの活動/Benesse 教育情報サイトでの情報提供について>

- Benesse 教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>) では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々の議論の輪を広げていきたいと考えています。⇒「第4回学習指導基本調査」の詳細もこちらのサイトでご覧いただけます。
- Benesse 教育情報サイト (<http://benesse.jp/>) では、ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。